

中京「京あんしんこども館」で授業

児童に本格心肺蘇生法

子どもの保健医療相談や事故防止啓発を行う「京あんしんこども館」(京都市中京区)が、小学生に心肺蘇生法を伝える講習を始めた。万が一の時に必要な措置を取れるよう子ども向けの正しい方法を教えたいと、子ども向けの訓練用人形も購入。90分の授業で基本的な動きを徹底的に学ぶ。



医師らの指導を受けて胸骨圧迫の練習をする児童

(京都市中京区「京あんしんこども館」)

医師指導、人形使い徹底学習

119番してから救急隊が現場に到着するのに平均で約9分を要する。一方、呼吸停止から5分経過すると救命の確率は25%程度に低下、10分が近づくとほぼ0%になることから、救急隊の到着までの救命活動を行える人を増やす必要がある。

本年度は今年2月と3月に京極小(上京区)と御所東小(同区)で講座を実施。3月中旬に行われた御所東小5年生の授業では、同館のセンター長で小児科医の長村敏生さんが心肺蘇生法を知ることの大切さを伝え、「やり方は多少不正確でも構わないから少しの勇気を出して」と語りかけた。

子どもたちは訓練用人形も使いながら胸骨圧迫の方法を何度も実践し、自動体外式除細動器(AED)の使い方も学んだ。参加した児玉理央さん(11)は「倒れている人が目の前にいた時、助けられるようになったと思う」と話した。

長村センター長によると、医師の指導を受ける本格的な講習は全国的にも珍しいといい、「子どもには無理と思う人もいるが、決してそんなことはない。小学生のうちからしっかり身につけてほしい」と力を込める。

市教委によると、来年度はより多くの学校が参加できるように声をかける方針という。

(太田敦子)